

研究テーマ：子どもたちが生き生きと自分たちの表現したいことを話せるための指導の工夫

所属 南国市立北陵中学校

氏名 谷口 博美

R G J H 2

1. 研究の背景

本校の3年生は、明るく活動的であり、1年生のような活発な授業態度で発音、音読等も元気に取り組むことができる。ALT との TT も週2時間あり、言語活動やゲームにも積極的である。ただ、聞くこと話すことには積極的に取り組めるが、深い会話を持続することができず、どう会話を進めるのかも難しい。事前にとったアンケートでも、「話せるようになりたい」と書いた生徒が多かったこともあり、話すことのコツをつかませ、話すことに自身を持たせる指導をしたい。

2. リサーチクエスチョン

ある話題について、2分間会話を続けるようにするためには、どうすればよいか。

3. 予備調査

予備調査1 授業観察の結果

さあ、会話しなさいと言っても子どもたちは何を話しているのか全くわからない様子で、より深い会話ができるようにペアづくりにも時間をかけながらもまずは日本語から会話の練習をさせたが、「難しい」という感想がほとんどであった。

予備調査2 英語力を示すデータ(教研式 CRT)

<観点別得点率>

	学年	全国	
コミュニケーションへの関心・意欲・態度	71.4	72.2	-0.8
表現の能力	59.3	64.4	-5.1
理解の能力	61.6	63.7	-2.1
言語や文化についての知識・理解	55.0	58.5	-3.5

<領域別得点率>

	学年	全国	
聞くこと	66.9	63.3	+3.6
話すこと	69.2	71.3	-2.1
読むこと	56.2	61.2	-5.0
書くこと	45.1	53.7	-8.6

<分析> コミュニケーションへの関心・意欲・態度はほぼ全国レベルであるが、表現の能力や言語や文化についての知識・理解が低いのは、言語活動や授業内容の定着が弱いものと考えられる。言語活動の内容の厳選・ねらいをはっきりさせて取り組ませる必要がある。

予備調査3 アンケート

英語の授業の中で、どの活動が楽しいか、必要と感じるか等についてアンケートをとった。

結果、英語を話す力を最も必要であると考え、大切であると答えた生徒が多かった。

4. 仮説の設定

仮説 1 あるトピックについて話す前に、その話題について mapping を行えば、会話をスムーズに続けることができるのではないかな。

仮説 2 つなぎ言葉についての知識を増やし、簡単な会話から、その使用を練習すれば、会話を続けやすくなるのではないかな。

仮説 3 表現できにくい言葉をリフレーズする練習をすることで、自分の言いたいことを伝えることが簡単になるのではないかな。

5. 計画の実践

仮説 1 2種類の mapping sheet を使ってペアで会話を練習した。その後 mapping sheet を使わずに、「music」について自由に会話をさせてみた。

仮説 2 つなぎ言葉のワークシートを使用し、練習させた。会話を成立させるため、また英語ではよい聞き手になること（相づちを打つ等）が大事であることを説明し、JTE と ALT との会話を見せてモデルを示した。

仮説 3 佐野先生からの「中学生では難しい。」とのご助言もあり、会話練習の中では実行できなかった。（定期テストでのライティング等で練習した。）

6. 実践の結果

仮説 1 最初 mapping sheet にとまどいを見せたが、慣れるとどんどん自分たちでつなぎ言葉を使いながら会話を楽しんでいるようであった。

仮説 2 ワークシートでの練習で、実際に会話の中での練習ができにくいので、定着ができたとは思えない部分があった。時間があれば、ALT または JTE との会話でつなぎ言葉を使える言語活動を考えていたが、時間がなく残念であった。しかし、mapping sheet での会話練習では、つなぎ言葉のワークシートを見ながらでも使おうという態度が見られた。

7. 結果の検証

仮説 1 ひと通りの実践が終わってからの生徒からのアンケートは下記の通りである。

* 「マッピングシート」を使ってよかった点は何ですか。（総数 60 人）

会話が続きやすい。話のつなぎ方（話の道すじ）がわかった。	23人
友達と会話できるのが楽しかった。	8人
実際に ALT や外国人と話すときに役立ちそう。	4人
自分の力がわかった。自分の力がわかり、喜びがあった。	3人
会話テストに役立ちそう。	2人
単語を変えているいろいろな言い方ができて便利だ。	2人
文の構成を覚えやすい。	1人
基本的なことなのでわかりやすい。	1人

この結果から、指導者のねらいを生徒たちが理解し、取り組んでいることがわかる。

仮説 2 * つなぎ言葉を練習してよかった点は何ですか。

言葉がつながる。	12人
実用会話で使える。	8人
会話につまっても気まずくない。	6人
会話が盛り上がる。楽しい。	5人
ゆっくり考える時間ができる。	3人
会話がとぎれないようにするのに大切。	3人
友達のことがよくわかる。	3人
文になる。	2人

時間があれば、つなぎ言葉を使ってゲームや ALT とつなぎ言葉を cut in する練習をしたいと考えていたができなかったのが残念だ。

8. 成果と今後の課題

全体をとおしての生徒の感想で、「こういう会話の練習をもっと時間をとってほしい。」または、「練習の時間を増やしてほしい。」（10人）というのがあったが、思いの外生徒たちが会話の練習を楽しんでいたりと、「話したい」と思っているのがわかった。それは、「会話する楽しさがわかった。」（5人）「会話の幅が広がり自然に会話できるようになった。」（2人）「会話の型ができているのでやりやすい。」（2人）との感想からもわかる。成果としては、生徒がコミュニケーションの図りかたについて理解できたことと会話の楽しさがわかったことである。そしてさらに「自分でテーマを決めてやってみたい」（2人）「シートを見ずにやってみたい」（2人）「色々なパターンを作ってほしい」（4人）というようにこれで終わらずにさらにステップアップしたいと思う生徒がいた。友達と会話することが楽しく、ペアを変えながらやってみたいという生徒もいた。指導者が考えている以上に「会話が成立すること」への達成感や満足感があったことに驚き、さらに自分たちの弱点も理解できていたことに驚いた。生徒の感想でもあるように、今後自分で話題を見つけよう話をつなぎながら会話するのかということ指導しながら、マッピングシートなしで「2分間の会話をつなぐ」ことへと発展させたい。つたないプロジェクトであったけれども、生徒の姿を見ながら、生徒を教科書に取り組んでいくことが大事であるということもわかった。独りよがりの指導にならないように、生徒の声を聞きながら成長する指導者でありたいと思う。